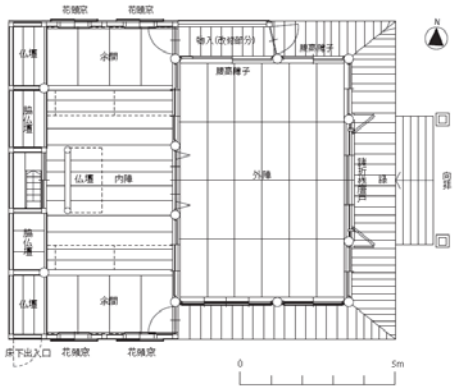
本堂・門 / 国の登録有形文化財



本堂は入母屋【いりもや】造り平入りの本瓦葺きで、正面に向拝【こうはい】を付け、正面側三方に縁を巡らす外陣【げじん】と左右に余間を配した内陣【ないじん】からなる後戸【うしろど】形式の平面が特徴です。

南東に約 10km 寺川上流の多武峰【とうのみね】妙楽寺輪蔵【りんぞう】の部材をここに運び利用し、明治 20 年に完成しました。円柱や脚部の礎盤【そばん】等は輪蔵からの転用が明らかで、神仏分離時代を物語る貴重な寺院建築といえます。

本堂正面には吐綬鶏【とじゅけい】をはじめとする花鳥を透彫りにした大欄間があり、当寺の特徴です。

門は薬医門で、木鼻や蟇股【かえるまた】の彫刻は伝統的で質実な造形です。集落を南北に貫く街道に面し、本堂と共に歴史的景観を形成しています。

多武峰由来の古材の数々を探しながらゆっくりお参りください。

大欄間の一部　吐綬鶏

スマホから

浄楽寺は山号を無異山と称する浄土真宗本願寺派の寺院です。本尊は阿弥陀如来立像（木造、康雲作）です。釈迦如来の石仏を本尊とする法相宗常楽寺を前身とし、「和州中村惣道場」を経て宝暦六年（1756）に寺号認可が下りました。

中町は大和三山、三輪山、二上山に囲まれたのどかな平坦集落で、中世に成立しました。奈良盆地に点在する環濠集落のひとつでもあり、現在も名残の水路が残っています。

表紙：明治 24 年「寺院明細取調帳」添付の境内図
協力：鈴木喜博、大河内智之、山川均

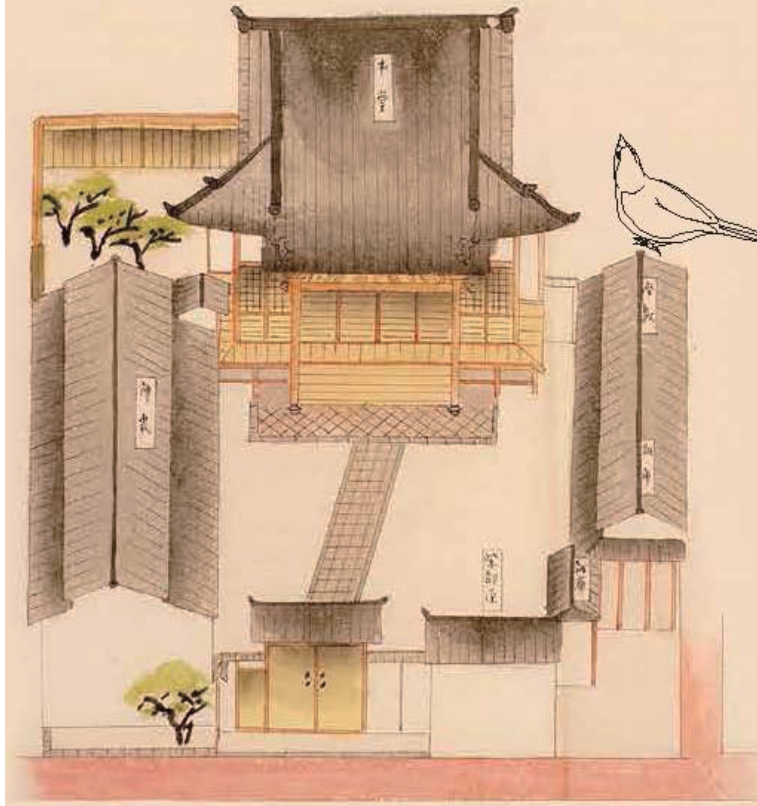
【アクセス】
名古屋駅から車で 2 時間半、電車で 2 時間半
京都駅から車で 1 時間半、電車で 1 時間 45 分
大阪駅から車で 1 時間、電車で 1 時間半
近鉄新ノ口駅から徒歩 25 分、もしくは大和八木駅からタクシーやレンタサイクルが便利です。
■見学・駐車場については事前にお問い合わせ下さい。

浄楽寺【じょうらくじ】0744-23-4766
〒634-0009 奈良県橿原市中町２７９

奈良県橿原市

浄楽寺

国の登録有形文化財



2025-02-02

本尊　阿弥陀如来立像

本尊阿弥陀如来像は右手を上げ、左手を下げて、それぞれ親指と人差し指を合わせた来迎印を結んでいます。このかたちは阿弥陀如来が極楽（西方浄土）からこの世（現世）に現れるイメージ（来迎）を示すもので、儀礼としては、この本尊の前で南無阿弥陀仏の念仏を唱えます。仏像が金色に仕上げられて全身光り輝くのは、闇に隠れた心の煩悩にまで光が届き、心の不安を和らげ、心の安寧を保つといった役割があるといわれています。

本像は、頭部が小さいものの、やさしい顔立ちが印象的です。広い肩幅、左右に張った両肘、厚みのある腰部など、大ぶりな体形を表しており、やや前傾した姿勢が特徴的です。衣の皺数が多く複雑ですが、脚部の衣文線は整理されており、総じて江戸彫刻の特色が顕著です。

本像の体部背面や両足枘などには、墨書・刻銘および極め印などが認められ、これらによって本山仏師・渡辺康雲の作であり、本山から下付された正式な木仏尊像であることが確認できます。当寺は宝暦六年（1756）に本山から寺号の認可を受け、さらに本尊像が下付されたことを伝える文書があり、本像はそれに該当すると考えられるものです。製作は江戸時代、18 世紀半ばを降らぬ頃と推定されます。

像底の文字

釈迦如来石仏

（奈良県立）「常楽寺」

（奈良県立）「本　誉」

浄楽寺門前に置かれていた石仏です。石仏は地蔵菩薩や阿弥陀如来が多いのですが、この像は珍しい釈迦如来です。蓮座【れんざ】の上に座り、右手は掲げて施無畏印【せむいいん】、左手は膝の前に伸ばす与願印【よがんいん】という印相で、これは釈迦如来の特徴です。石仏としては標準的な大きさで、石材は奈良県山添村で産する花崗岩「奈良石」です。彫刻技法は体の前から半分を彫り出す「厚肉彫【あつにくぼり】」です。頭部を少し前に張り出し、体はほっそりとしてスマートです。表情は摩滅のため見えにくくなっていますが、これは信者たちが何回も撫でたからかもしれません。

浄楽寺の記録により、中町集落の北西にかつて存在した「霊鷲山【りょうじゅせん】常楽寺」（法相宗【ほっそうしゅう】）の本尊だったと思われます。令和 6 年の調査により、像に向かって左に「常楽寺」、右に「本誉」という銘文が見つかりました。

石仏が作られた年代は不詳ですが、奈良県内の他の石仏の検討から、室町時代後期（16 世紀前半）頃の作例だと思われます。この時代の釈迦石仏はたいへん珍しく、また彫刻技術も優れているなど、非常に貴重な石仏です。